

拓友 25

日本大学拓友会会報

生物資源科学部 国際地域開発学科

第25号 2001年6月発行

新世紀若い力で魅力あふれる拓友会へ



平成12年度 拓友会総会にて

拓友の原点は湘南キャンパスにあり



拓友会会長

近藤良三郎

拓友の皆さん、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、今年は新世紀最初の入学生153名を当会の準会員として迎えました。会員一同心から歓迎いたしたいと存じます。若い準会員の方々には、毎年行われる拓友会懇親会にも参加していただいて、卒業生との「触れ合い」の中から、何かをつかみ、これからの学生活動に役立てていただきたいと願っております。

来年4月からは、国際地域開発学科は藤沢市六会湘南キャンパスの新校舎に移転し、生物資源科学部の全ての学科が一つのキャンパスに揃うことになります。

藤沢市六会のキャンパスは、我が学科の発祥の地ともいえる所でありまして、日本大学百十年余の伝統の中で、我が学科が、その時々時代に対応しながら発展して今日を迎える事になったことは、誠に感無量なものがあります。

拓友会といたしましても、大いに祝福すべき慶事であると考えております。会員の皆さんに於かれましては、地域ごとあるいはグループごとの会合を通じて、益々相互の親睦を図るとともに、今後とも母校の発展のためにできるだけの協力いただくよう願っております。

なお、会の活性化、発展のためのご意見、ご希望等がございましたら、積極的に会報「拓友」にご投稿下さるようお願いしておきたいと存じます。

拓友会の発展と会員の皆様のご健勝を記念してご挨拶といたします。

平成12年度総会 懇親会開催

初の「懸賞エッセー」表彰



「平成12年度拓友会総会」が、平成12年8月5日(土)、南国酒家原宿店に多数の拓友参集のもと開催されました。席上、近藤会長を議長に選出したのち、以下の議題が慎重審議されました。

(1)平成11年度事業報告の件

総会・懇親会、幹事会・常任幹事会の開催、名簿の整理、拓友会報の発行、宮崎賞・拓友賞の授与、卒業生への記念品贈呈

(2)平成11年度決算報告・監査報告の件

平成11年度会計決算報告並びに収支決算書が上程され、松沢・山中両監事より会計処理が正確である旨、監査報告書を添えて報告されました。

(3)平成12年度事業計画の件

- ①平成12年度総会・懇親会の開催
8月5日(土)南国酒家原宿店で開催
- ②幹事会の開催
- ③名簿の整理
- ④拓友会報第24号の発行
- ⑤宮崎賞・拓友賞の授与
- ⑥卒業生への記念品贈呈

(4)平成12年度会計予算の件

総額¥3,697,882

(5)宮崎賞受賞者の承認

平成12年度の宮崎賞に、2年次学生鄭建鴻(マレーシア出身)君が承認されました。

上記議題について、早川事務局長より議事資料の説明ののち、慎重審議の上、いずれも承認されました。

懇親会では今年度に他界された拓友を偲び、全員で一分間の黙祷を捧げたのち、「翡翠の間」において学部校友会をはじめ各分会長のご来臨のもと、懇親会が開催されました。

学部校友会茂澤晃会長のご挨拶、近藤会長の挨拶があり、宮崎賞を授与した鄭建鴻君に賞状と記念品が贈呈されました。



懸賞エッセー入選表彰(山本眞伸氏)

今回は、拓友会編集委員会が行った「懸賞エッセー」募集でみごと入選された山本眞伸(第4期)、石黒彰則(2年次学生)、伊澤紀人(2年次学生)の3氏に賞状と記念品が贈呈されました。

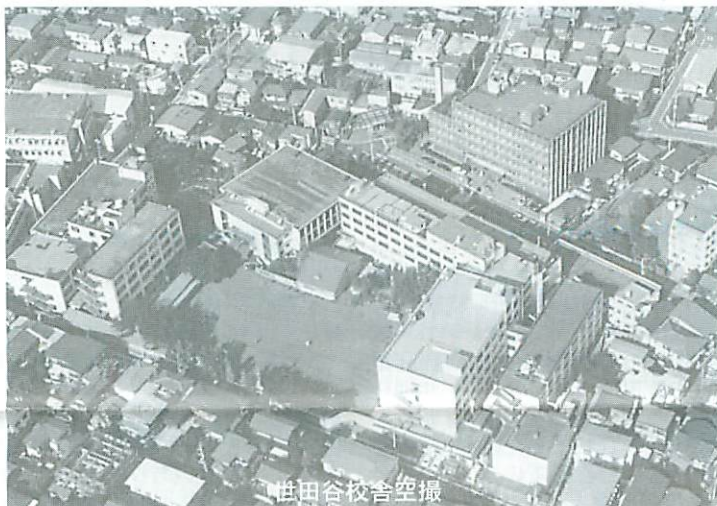
その後、懇親に移り、廣瀬昌平教授による乾杯



に引き続き、いたるところで再会を果たした旧友の輪ができ、和やかな懇親が続きました。参加した同期ごとに紹介が行われたり、近況を報告する参加者もあつたりとおおいに盛り上がりましたが、最後に浜口副会長が再会を約した挨拶をして閉会しました。

思いで多い世田谷校舎

平成14年4月より湘南校舎に全面移転となります。



世田谷校舎空撮



6号館研究棟



校舎全景

「主任に就任して」 上原 秀樹

本年度から2年間、国際地域開発学科の主任として学科運営の責務を担うこととなりました。

我々の学科が改組し、すでに2期目の卒業生を社会に輩出しているのは承知の通りです。前任者の山田先生が安定した学科運営のルールを敷いてくださり、あとは、そのルールに乗っかるだけで済むのですが、国内では少子高齢化の社会を迎えて、多くの大学で受験者数も激減する傾向にあり、学科にとっても、これから本当の意味での厳しい試練が待ち受けています。海外に目を向けると、IT革命によって加速をつけてきたグローバル化の波が押し寄せてきていますから、我々教員自身も含め、それに対応できる人材の育成を図らなければならないという厳しい現実があります。

我々の学科では、この4月から30代が2人、50代が2人の新専任の優秀な先生方を教授陣に迎え、学科教員の平均年齢も大分若返りました。4人の新任の先生方は、国際機関、海外の研究機関等で研究活動を進めてこられ、学科内でも新鮮で自由な国



際色豊かな雰囲気を提供していただいております。

私自身の学科の運営方針としては、このように自由でのびのびとした教育と研究の環境を提供することであり、そのような雰囲気の中でこそ、新しいアイデアも生まれ、優れた研究の生産と教育サービスの供給に役立つものと信じています。ただし、学科教員の各自が自分自身を見失わないような競争を意識した緊張感と、常に前向きの変革を求めるような学科組織を形成し、その発展を維持するための協調および協力的な意識をもたない限り、「創造的破壊」を伴った組織造りは不可能だと思っています。そうすることによって、これから激動の時代を迎える高等教育の中であって、まさに我々「学科のアイデンティティ」を維持しながらの「グローバル化」を進める事が出来るし、学生の教育に対しても自信を持って対応できるものと信じています。皆様の心からの支持をお願いする次第です。

国際地域開発学科の動き

新任教職員紹介

本年度6名の新しいスタッフを迎えました。
今後のご活躍を期待しつつご紹介いたします。



嘉数 啓(かかずひろし)教授
沖縄県出身。琉球大学文学部経済学科を卒業後、ネブラスカ大学で博士を取得(Ph.D.経済学博士)。琉球大学、国際大学、名古屋大学で教鞭をとられ、またアジア開発銀行専属エコノミスト、沖縄新興開発金融公庫副理事長を歴任されました。最先端の経済理論と政策は今最も必要とされています。担当科目は経済統計学、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学、国際金融論など(理論経済研究室・58歳)



増見 國弘(ますみくにひろ)助教授
徳島県出身。日本大学短期大学部農業科、食品経済学科を卒業後海外技術協力事業団、国際協力事業団等によりインドネシア、フィリピン、フィジーをはじめ十数カ国で技術協力に携わられました。実践に裏打ちされた講義は学生のモチベーションを刺激するに違いありません。担当科目は国際協力論、国際機関論、技術移転論、異文化交流論、地域研究Ⅰなど。農学博士。(国際協力研究室・53歳)



北野 収(きたのしゅう)助教授
東京都出身。本学拓植学科を卒業後、東京農工大学大学院に在学中国国家公務員第1種試験に合格し農水省に勤務。農水省よりコーネル大学大学院に派遣され2000年にPh.D.都市・地域計画学博士を取得されました。農水省における経験とアメリカでの留学経験をもとに、学生のよき導き役になって欲しいと願っています。担当科目は農業政策、経済情報分析実習、地域開発論、地域研究Ⅰなど。(農業経済第2経営研究室・38歳)



KINGSHUK ROY
(キンシュック ロイ)専任講師
バングラデシュ出身。母国の大学卒業後、国際協力の企業を経て、鳥取大学連合大学院で農学博士を取得、その後、日本大学および農業研究センターで4年間客員研究員として農業土木、生産環境工学、農業情報利用を研究されました。ネイティブよりも正確な日本語は学生の間でも評判です。担当科目は環境農学実験、原書講読、地域研究Ⅱ、開発工学、地域環境保全工学など。(国際環境生態研究室・36歳)



落合 あづさ(おちあい)副手
埼玉県出身。平成9年に本学拓植学科を卒業後、筑波大学で環境科学を専攻し修士を取得し、その後タイの東北地方の大学で教育に携わりました。今年度より縁あって副手として学科の事務を担当していただくことになりました。豊かな発想力と経験が学科事務の運営に大いに生かされることと期待されます。バスケットボールが大好き。趣味はデッサン、版画など。(経済第1研究室)



山口 貴子(やまぐちたかこ)副手
神奈川県出身。平成13年、本学海洋生物資源科学科を卒業。ローラーホッケー部に所属。ポジションはキーパーで、チームは学生日本一の成績を残しています。趣味は読書と映画鑑賞で、最近は紅茶に凝っているそうです。今まで学んだ分野(卒論は「キンギョ腸内細菌の分子分類学的研究」とは違いますが、旺盛なチャレンジ精神で学科事務に取り組んでもらえることでしょう。(経済第1研究室)

退任

◎山田三郎教授が2001年3月定年により退職されました。9年間でしたが、特に退職までの4年間は学科主任という大役を果たされました。どうもありがとうございました。
◎片岡晴雄教授が明星大学での新学部開設にともない退職されました。3年間でしたが、学生から大いに慕われておられました。これからもご活躍をお祈り申し上げます。
◎松永まどか副手が退職されました。3年間でしたが学科事務がいつもスムーズに運営されるよう貢献されました。ありがとうございました。

◎澤田留美副手が退職されました。短い間でしたが、実習では学生から大いに頼りにされていました。ありがとうございました。

昇格

半澤和夫助教授が2001年4月1日、教授に昇格されました。アフリカ、開発の専門家、また学科の柱として今後の活躍が期待されます。担当は国際農業開発論、地域研究Ⅰ、地域経済論、発展途上国農業論、開発経済学など(国際開発研究室・49歳)

新カリキュラム

◆文化情報分析実習始まる

新しいカリキュラムにともない、今年度2年次から経済・開発コース、環境・資源コース、地域・文化コースの3コースが新設されました。これは、経済・技術・語学を重視するという従来の考え方を、より具体的に示したものです。

この中で、地域文化コースは全くの新設コースといえます。このコースを特徴づける授業の一つとして、文化情報分析実習が4月から始まりました。この実習では、パソコン利用したインターネットによる情報収集と分析、ビデオ等従来のメディアを利用した情報収集と分析、学外見学による情報収集と分析をコンピュータ実習室、LL教室、計算室などで行い、学科にある施設を十分に活用した実習を行っています。来年湘南校舎に移転すると、LL設備、パソコン設備、液晶プロジェクター設備等が一つの部屋に完備した実習室で、一度に60人の実習が行える予定になっています。ハードについては以上ですが、ソフト

としての実習内容は学生諸君の進行状況に合わせておこなっています。例えば、地域文化コース41名の学生の中でワープロソフトが使えたのは4月の時点ではたった2人でした。そのため、BT(ブラインド・タッチ)の練習から始め、一ヶ月経って、今基本的な使い方をマスターしたところからです。これから、4つの班に分けてそれぞれテーマを決め、情報を収集し、分析し、前期の終わりに予定されているパワーポイントと資料配付による報告会に向けて実習を行っていくことになっています。後期にはアクセスを利用した文化情報データベースを構築することが主たる実習の予定です。なお、経済・開発コースの実習は、農業白書を手がけた北野先生を迎えて、表やグラフの読み方の実習や、エクセルを利用した経済情報分析が予定されています。こちらも来年には120人が一度に実習できるコンピュータ実習室が準備中されます。

入学・就職状況

◆入学状況

国際地域開発学科の平成13年度新入生は153名で、うち男子が94名、女子が59名、留学生2名(韓国1・中国1・女子)です。男女比率は男61.5%、女38.5%です。また、彼等の出身高校をみると日大付属高校が57名、非付属高校が96名で付属比率は37%であり、公・私立比率は公立44%、私立56%、大検2名となっています。さらに首都圏比率(東京・神奈川・埼玉・千葉各都県出身者)は54%で、近年の傾向である高い首都圏比率を裏付けています。ただ、1年次のクラスとしては、休学・再履修生が16名(男15、女1)加わるので総数は169名になります。

◆就職状況

平成13年3月31日現在の学部就職指導下の調査によれば、平成12年度卒業生の就職状況は、学部全体(獣医を除く)では92.65%で、昨今の厳しい経済状況の中、多くの優秀な学生が社会人として巣立っていきました。国際地域開発学科でもほぼ同様の就職率を確保しております。就職以外の進路としては、大学・大学院などの進学者が20名と例年通りの数字になっております。しかし、卒業後の進路が未定、無業などと回答した学生もあり、就職状況の厳しさが垣間見られる状況にあります。拓友会の先輩諸氏の一層のご支援を期待します。

教授の横顔 半澤和夫教授



本年4月、半澤先生が教授に昇格された。

半澤先生といえばアフリカである。院生時代から、アフリカの農業開発を社会・経済学的な観点からご研究されている。本学科の助手、専任講師、助教授を歴任し、今年で在職21年目。宮城県矢本町の農家に生まれ、幼少の頃から土や自然に親しむ事が多かったという。よくご自分で「色が黒い」と言われるが、それは宮城での農作業とアフリカでのフィールドワークの両方によるものなのであろう。いつも優しい笑顔で私達を迎えて下さる先生は学生の間でも特に人気が高い。学部時代は浦野起央先生のゼミでアフリカの政治経済について勉強し、アフリカ研究者を志す。

大学院農業経済学専攻博士2年のとき、11ヶ月間、ナイロビに滞在し、スワヒリ語、アフリカの政治経済や文化などを学ぶ。帰国後、篠原泰三先生、金沢夏樹先生、廣瀬昌平先生の下で研究を続け、平成3年「ケニアにおけるトウモロコシ高収量品種普及過程の社会・経済的研究」(指導教授:金沢先生)により博士号を取得。現在も精力的にアフリカのフィールドを訪れ、最近では、ザンビア農村におけるグローバル化の影響等による農業や農村社会の変化の解明に尽力されている。ご多忙の中、月1回のコンパを通じた学生との付き合いを大事にしていらっしゃる。先生の益々のご活躍をお祈りいたします。

Frontier Spirit

食用作物隊員として西アフリカ・ニジェールへ

中嶋 仁 平成10年卒

平成10年12月より12年12月まで、青年海外協力隊員(職種:食用作物)として西アフリカ・ニジェール共和国へ派遣された。国土の8割をサハラ砂漠が占め、国名の由来となるアフリカ大陸で3番目に長いニジェール河は国土の南西部をかすめる程度にしか流れていない。乾季の酷暑期、日中は50度を超える。環境は厳しかった。

私はブルキナファッソ・マリ国境地帯のテラ郡の農業局に配属になりジャガイモの栽培・普及指導をすることが要請であった。しかし、5歳までの子供が10人中7~8人死んでしまう現状や、平均寿命が50歳に満たないことなどを目の当たりし、また同地域では水資源に特に恵まれていない村落が多く、換金作物の奨励といった活動ではなく栄養改善と水資源について考えなければならなかった。

果樹や樹木の栽培を取り込んだアグロフォレストリー、まだまだ地域に根付いていない雨期・乾季の野菜栽培デモンストレーション、砂漠化防止のための植林等さまざまなことに取り組もうとしが、私が相手にしたニジェール国内でも、保守的であるといわれるソンガイ族はこれらの提案になかなか理解を示さなかった。彼らの所有権に対する考えは



西アフリカ・ニジェールにて

かなり複雑で村で何かをデモンストレーション栽培するために土地を使う事は容易ではなかった。それでも頻りに村へ通い信頼関係を深め、村や地域の歴史を教えてくれるようになり、自分の取り組みも理解されるようになった。

それまで素掘り井戸を使用し零細な畑で野菜を作っていた巡回先の村へ現地NGOと連携し金沢二水高校の支援を受けて、崩れない水が枯れない井戸を作ることができた。

また、野菜の普及を視野にいれて行った農業局や病院でのデモンストレーションも成功し、特に雨期の野菜栽培の成功は現地の人々に驚かれた。

ようやく自分に対して現地の人々が理解をしてくれて、活動がスムーズにいくようになった頃、任期終了が近づいた。任期終了はちょうど乾季の野菜栽培と重なり井戸を作った村では「井戸を作ったことで一緒に野菜を作ってくれないか」と残念がってくれた。これは本当にうれしかった。

ミレット、ソルガムや水汲みに行き、バケツを頭にのせて運ぶ人々、背中にこぶのあるセブ牛、ラクダに乗って遠い町からくるトゥアレグ族、そして特有のアフリカ部族社会。帰国後4ヶ月が過ぎ、今では大変懐かしく感じる。2年はあっという間だった。

「私の拓友」

堂木 護 平成9年卒

私は、2年間南米エクアドルで青年海外協力隊員として野菜栽培の普及活動を行ってきた。それは拓植学科入学以来の念願だった。そのため、サークル活動では海外志向の部員の多く集まる外研(海外研究部)に所属し、ゼミでは実習を重きにおく生産技術ゼミに参加した。外研の活動を通じ精神的な部分が鍛えられ、ゼミでは技術的な部分を学ぶことが出来た。

エクアドルでの活動は公立農業高校に配属され、中学3年生程度の生徒を対象とし、講義・実習を担当した。奇遇にもこの配属先は外研生で拓植学科の先輩が開拓したところであり、私自身も一度訪れたことのあるところであった。そのため私を覚えてくれた同僚教師や、任地の友人には熱烈な歓迎を受けた。生徒達は明るく、精一杯のびのびと中学生活をしていた、そんな彼らの姿に励まされることは多々あったように思う。

また、任地近くに東京農大拓殖学科を卒業し35年前にエクアドルに移住された方がバイナッブル農園を開いていた。同じ熱帯農学を志した者同士、年



南米エクアドルにて

齢差を感じずに懇意にしてもらった。35年の経験から出る、栽培のアドバイスやエクアドル社会情勢・歴史のお話は的確であり含蓄の含むものであった。私にとって農大生は、外研での交流があったお陰で、とても親しく感じられる人々になった。隊員にも農大生が多い、その人達と農業部会というものを組織し先住民への技術指導なども行った。ぜひ現役生で隊員を目指す人などがいれば、彼らとの交流を深める意義はあると思う。

私のエクアドルでの2年間は、このように拓植のつながりでその活動の幅が大きく広がったように思う。なぜ彼らと意気投合できるのか、それはフロンティアへの熱い情熱に他ならない。私の知る範囲で、現在外研の仲間が一人、ゼミの同級生が一人アフリカで活動を行っている。学科全体でみれば、毎年1~2人協力隊に参加しているようだ。隊員を志す現役生はもっといると思う。国際地域開発学科がいつまでも熱くフロンティアを語る学科であることを期待したい。

拓友賞・宮崎賞

「拓友賞」本橋弘康君に授与



平成12年度の「拓友賞」は、去る3月25日に行われた国際地域開発学科卒業式で本橋弘康君に授与されました。今年度の卒業生134名の中から、成績・人物ともに優秀で、さらに今後の本会活動に積極的に活躍できることが選考基準でした。在学中は、インドネシアゼミに所属し、ゼミナールの牽引車の一人として活躍しました。さらに、卒業生による卒業パーティーの責任者としてもその任を果たしました。今後は、平成12年度卒業生の「まとめ役」として大いに貢献してもらえものと期待します。

「宮崎賞」鄭健鴻君(マレーシア)に授与



平成12年度の「宮崎賞」は、国際地域開発学科2年鄭健鴻君に授与されました。今後の活躍を期待します。



計 報



顧問岡田正男氏逝去
拓友会顧問岡田正男氏が平成13年4月8日に逝去されました。

岡田氏は、昭和22年9月、拓殖科(現国際地域開発学科)復活運動の推進を期した「拓殖科校友会」結成のために法文学部21番教室に参集した80名の拓友の

一人でした。その後、昭和38年に念願の「拓殖学科」復活に校友会の一員として、工藤正城氏、庄川洋一氏らとともに尽力されました。以来、岡田氏は学科発展を願いつつ、拓友会発足から平成7年までの長きに亘って本会の副会長職を努められました。その後、平成8年からは本会顧問として、良き相談者でした。

本会にとって、氏を亡くしたことは痛恨の極みではありますが、この上は安らかにやすみ下さいませよう心から哀悼の意を表します。

事務局だより

① 総会開催日固定化のお知らせ

拓友会では、毎年行っている「総会」の開催日を定例化することにしました。総会開催日を定例化することによって、会員の予定日が確定しやすくなる利点があると判断いたしました。今後の総会開催日は、原則として毎年6月最終土曜日とします。

② 卒業生名簿作成の連絡はがきについて

最近、学部卒業生を対象にした「卒業生名簿」作成のための住所確認はがきが送付されているようです。これは、民間業者によるものであり、本学部校友会ならびに拓友会は一切関与しておりませんのでお知らせします。

③ 湘南校舎への移転のお知らせ

平成14年4月1日より、国際地域開発学科は湘南校舎に移転します。これにより、「拓友会事務局」も同時に湘南校舎に移転します。同年4月より当分の間、事務局への連絡先は以下の通りとなります。

〒252-8510 藤沢市亀井野1866

日本大学生物資源科学部内拓友会事務局

電話 0466-84-3800(学部代表)

FAX 0466-84-3805

E-Mail osamu@brs.nihon-u.ac.jp

※懸賞エッセー募集

次の要領で懸賞エッセーを募集いたします。選考のうえ上位3名を表彰のうえ副賞を贈呈し、「拓友」に掲載いたします。また応募者全員に記念品を贈呈いたします。

＜応募要領＞

■応募資格:国際地域開発学科在学生及び拓友会会員

■課題:①私の異文化体験②環境問題を考える
③これからの国際地域開発学科
④私の生き方

■応募要項:1. 字数:800字~1000字
2. 締め切り:随時

■提出先:拓友会事務局

国際経営研究室 早川 治

平成13年度総会ならびに懇親会のお知らせ

平成13年度の総会ならびに懇親会を下記の通り開催いたしますのでご案内いたします。なお、出席希望者はご面倒でも事務局までお知らせください。

記

開催年月:平成13年6月30日(土)

場 所:南国酒家「原宿店」本館

時 間:「総会」午後4時から5時 紅玉(こうぎょく)の間
「懇親会」午後5時から7時 翡翠(ひすい)の間

会 費:お一人 5,000円

学生及び同伴者2,000円(当日会場で徴収します)

参加希望者は、6月22日(金)までに拓友会事務局までお知らせください。

〒154-8513東京都世田谷区下馬3-34-1

日本大学生物資源科学部内 拓友会事務局 早川 治

TEL&FAX. 03-3421-6437 (事務局直通)

E-メール osamu@ca.mbn.or.jp

INFORMATION

- 日本大学生物資源科学部のホームページがリニューアルされました。対象を限定せず、誰にでもみて頂けることを目指したものとなっています。URLは次の通りです。
<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/>
また、校友会のURLは次の通りです。
<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/webadmin/alumnus/index.html>
- 8744名の拓友の輪を広げよう!!
(1)地方大会、懇親会の開催。
(2)各種イベントの開催(同期会、ゼミOB会、恩師との食事会、ゴルフコンペ等)
(3)住所不明の拓友会会員の情報及び慶弔情報
その他盛りだくさんな計画・情報を拓友会事務局にご一報下さい。
事務局から、会員情報、その他規定の範囲内で皆様の活動を応援します。
- 校友会名簿の頒布のお知らせ
学部校友会が作成した「校友会名簿」のCD-ROMの在庫があります。
このCD-ROMは、学部校友会が「創立50周年」を記念して作成したもので、1998年(平成10年)卒業生までの住所が掲載されています。CD-ROMの入手を希望される方は、3,000円を添えて、拓友会事務局までお申し込み下さい。

【編集後記】

来年4月にいよいよ世田谷校舎から湘南校舎へ全面移転となります。

本号では思いでの校舎を掲載しました。その写真を見ますと、深く刻まれた記憶が喚起されます。そのことを大切にしたいと思います。

そして後輩たちが、湘南キャンパスを舞台に新たな発展にむけた歴史を刻むよう声援を送りたいと思います。

発 行: 日本大学拓友会

編 集: 会誌編集委員会 平岡 完勝
委員長

事務局: 日本大学生物資源科学部
国際地域開発学科内

住 所: 〒154-8513 東京都世田谷区下馬3-34-1
TEL&FAX.03-3421-6437

印 刷: Basic Print